

まちかね山 吹奏楽団

第11回定期演奏会

特集！ 真島先生 & 阿野先生 インタビュー with 小野川先生

日時：2013年2月10日(日)

ゲスト：真島俊夫氏、阿野次男氏、小野川昭博氏

インタビューアー：岩佐 拓(当団運営部長)

まちかね山吹奏楽団第11回定期演奏会のゲストとしてお招きしたのは、吹奏楽界を代表する著名人の真島俊夫先生と、阿野次男先生、そして毎年お世話になっている小野川昭博先生です。ニューサウンス・インプラスでもお馴染みのお二人に、小野川先生にもご同席いただき、今回のプログラムのお話や、吹奏楽への想いなどを語っていただきます！

(敬称略)

☆指揮者や作曲家にはトロンボーン出身が多い！

まず真島先生からお聞きしますが、いつから吹奏楽を始められましたか？

真島：中学3年生のときですね。

—— 中学1年生ではないのですか？

真島：ええ。僕は機械が好きで、理工クラブに入っていたんです。ところが、中学2年生の時に吹奏楽部が出来て、かっこいいなあと思ってね。それで3年になると同時に「入りたいって言ったんです。最初はラッパが吹きたかったのですが、枠が全部決まって「これが余ってる」と言われてトロンボーンを渡されたんです。「やだなあ」と最初は思っていたんですけど、高校生の時に「グレン・ミラー物語」という映画が始まったんです。グレン・ミラーはトロンボーン奏者だったんだけど、そのソロが映画に出てきているのを見ると、「トロンボーンも良い楽器だなあ」と、思うようになったんです。

でも、結果的にはそれで良かったんですよ。世界中の指揮者や「描き屋」(作曲家やアレンジヤー)にはトロンボーン出身が多いんですよ。なぜかと言うと、トロンボーンはすごく難しい楽器なのに、相当上手くても目立たないのね。そこに加えて「ハーモニ楽器」なので、上も下も見ていると自然とハーモニーに興味がいくんですよ。何でこんな音がするんだろう？とね。

☆設計図を描くのとアレンジは似ている！?

—— その中で、どうして「描き屋」になろうと思ったのですか？

真島：阿野さんもご存知のように僕は引込み思案だから笑ほんとにね、人前でしゃべるのはホントにダメなんだよね。恥ずかしくて(笑)だから、目立たない方に行こうと思うとアレンジヤーになるよね。ましてや人前で踊る(指揮する)のは一番恥ずかしいよ(笑)。

それと、もともと模型作ったり、機械設計するのが好き



だったのも因でしょうね。実は、設計図を描くのとアレンジは似てるわけですから。—— そんな真島先生は、いつからアレンジヤーになるうと思いい始めたので

真島：高校生の時からアレンジをやっていたんですが、高校1年生の時と大学1年生の時の吹奏楽コンクールの課題曲を描いていた、尊敬する兼田敏先生がヤマハ音楽振興会の設立したネム音楽院(現在のヤマハ音楽院)でバンドディレクター講習を開いたんです。日本にまだ無かったバンドディレクターというものを育成するために、音大でやることを1年間教えると言ったんです。一般教養を除いて、指揮法から編曲法、作曲法、マーケティングに、アメリカの作曲家や出版物の勉強まで、奨学金付きでね。それに合格したので、神奈川大学2年生の時に中退してそちらに行くことにしたんです。

—— もしかして、合歓の郷(ねむのさと)で開催されていたものですか？

真島：本格的に合歓でやり始めたのは翌年からだから、僕たちは0期生。オーブン・リードをしたんです。合歓のホールを使ってアレンジの音を実際に出してチェックしていましたね。

(兼田)敏さんは絶対に人を褒めなかつたから、みんなけちんけちんけに言われるんだけど(笑)でも、僕がアレンジしたベートーベンの曲の音出しが終わった後、敏さんはしばらく黙っていたんです。その後出た言葉が「このアレンジは文句の付けようがないな」って言われたのよ。みんなからワァって拍手されたりしてね。そこで道を誤っちゃったんだね(笑)嬉しかったけど、敏さんが亡くなるまでに僕は3回だけ褒められたことがあるんだけど、1回目がそれだったね。

2012年	吹奏楽コンクール	■第51回大阪府吹奏楽コンクール■ 大阪府大会 金賞受賞・府代表 日時：2012年8月12日(日) 場所：堺市民会館(大阪府堺市) ■第62回関西吹奏楽コンクール■ 関西大会 金賞受賞 日時：2012年8月19日(日) 場所：尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール(兵庫県尼崎市) 課題曲：行進曲「希望の空」(和田信) 自由曲：神戸の鶴巢(中橋愛生) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	■大阪府吹奏楽連盟50周年記念演奏会■ 日時：2012年2月12日(日) 開場13:00/開演14:00 場所：大阪城ホール(大阪府大阪市) 【大学・職場・一般合同バンド】行進曲「美中の美」(P. スーザ) 浪花のモーツァルト キダ・タロー・メドレー (小島里美 編) ゲストコンダクター：キダ・タロー 【大合同合奏】アルメニアンダンス・パート1 (A. リード) 翼をください (宮川彬良 編) ふるさと (立田浩介 編) 指揮：丸谷明夫 ■第39回大阪府アンサンブルコンテスト■ 日時：2012年12月23日(日) 場所：堺市民会館大ホール 編成：金管八重奏(まちかね山吹奏楽団) 銀賞受賞 曲目：華円舞 (福田洋介)

☆今さら聞けない、ジャズの基礎知識♪

ジャズ(jazz)とは・・・

19世紀から20世紀初頭にかけてアメリカ南部の都市を中心として生まれた音楽形式です。ニューオリンズを拠点として奴隷制度から開放されたアフリカ系の人々によって誕生し、後に白人のプレイヤーも数多く誕生しました。日本には1920年代初頭に持ち込まれました。

演奏の中に、ブルー・ノート(第3音、第5音、第7音を変化させた音階。ドから始まる場合ド・レ・ミ♭・ファ・ソ♭・ラ・シ♭・ドになる)、シンコペーション(強拍部と弱拍部の位置が一時的に変更になること)、スウィング、バラード、コール・アンド・レスポンス(掛け合い演奏)、インプロヴィゼーション・アドリブ(即興演奏)、ポリリズム(声部によって拍の位置が異なるリズム)などの要素を組み込み、奏者の力量と才覚に大きく左右されることが特徴的とされています。

インタビューに出てくるジャズの編成と楽器について

【ビッグバンド】…ビッグバンドとは、大人数編成バンドのことです。ホーンセクションとリズムセクションに分かれます。

・ホーンセクション…サクソフ：アルトサクソフ2、テナーサクソフ2、バリトンサクソフ1で構成されることが多い。
トランペット：トランペット4で構成されることが多い。
トロンボーン：テナー・トロンボーン3とバス・トロンボーン1で構成されることが多い。

・リズムセクション…ピアノまたは他の鍵盤楽器
ギター：ベース、アコースティックベース(ウッドベース)とエレクトリックベースを使い分ける。
ドラムス：シンバル1～2枚、ハイハットシンバル、タムタム2～3個、バスドラム、スネアドラム
*曲によってはその他のパーカッションが加わることもあります。

〈多くの場合、総勢で17人前後となるこの編成をフルバンドと称します。〉

【コンボ】…コンボとは少人数の編成によるバンドのことです。

〈多くの場合、ピアノもしくはギター・ベース・ドラムのリズムセクションに、トランペットやサクソフなどのホーンセクションを加えた3人編成(トリオ)から8人編成(オクテット)です。〉

株式会社 ビデオアップ
〒534-0015 大阪市都島区善源寺町2丁目
6-14 田中ビル3階
Tel.06-6929-0874 Fax.06-6929-0873
http://www.video-up.co.jp/
Free Dial 0120-0874-74

残しておきたいあの日の感動・・・

2009年	定期演奏会	■第七回定期演奏会■ 日時：2009年3月7日(土) 開場 18:00 / 開演 18:30 場所：池田市民文化会館 アゼリアホール 【1部】 フェスティバルヴァリエーションズ (C.T. スミス) / シェナンドウアー (F. ティケリ) ボエム (B. アニシモフ) / ユー・レイズ・ミー・アップ (R. ロヴランド) 【2部】 オペラ座の怪人 (L. ウェーバー) / ウェストサイドストーリーより シンフォニックダンス (L. パーンスタイン) 【アンコール】 ウェストサイドストーリーより ワン・ハンド・ワン・ハート (L. パーンスタイン) 管弦楽のためのラプソディ (外山雄三) 指揮：田中智章 客演指揮：小野川昭博 客演奏者 (ホルン)：池田重一
	吹奏楽コンクール	■第48回大阪府吹奏楽コンクール■ 大阪府大会 金賞受賞・府代表 日時：2009年8月16日(日) 場所：箕面市立メイプルホール ■第59回関西吹奏楽コンクール■ 関西大会 銀賞受賞 日時：2009年8月23日(日) 場所：尼崎市総合文化センターアルカイックホール 課題曲：ネストリアン・モニュメント (平田智暁) 自由曲：シダス (T. ドス) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	■第36回大阪府アンサンブルコンテスト■ 日時：2009年12月27日(日) 場所：堺市民会館大ホール 編成：フルート四重奏 銀賞受賞 曲目：グランドカルテット より (F. クーラウ)
2010年	定期演奏会	■第八回定期演奏会■ 日時：2010年3月13日(土) 開場 17:30 / 開演 18:00 場所：大阪市立住吉区民センター 大ホール 【1部】 シンフォニック・ファンファーレ (M. キャンパハウス) カンタベリー・コラール (J. ヴァンデルロースト) / ザ・ウィンズ・オブ・パワー (N. ヘス) 【2部】 風笛 ～あすかのテーマ～ (大島ミチル) / オーボエ・コンチェルティーノ (J. W. カリヴォダ) 《アンコール》ガブリエルのオーボエ (E. モリコーネ) 【3部】 ブルー・シェイズ (F. ティケリ) / 交響詩「ローマの祭」(O. レスピーギ) 【アンコール】 ウィー・アー・ザ・ワールド (M. ジャクソン 他) / 行進曲「K点を越えて」(高橋伸哉) 指揮：田中智章・福野勝久 客演指揮：小野川昭博 客演奏者 (オーボエ)：福田淳
	吹奏楽コンクール	■第49回大阪府吹奏楽コンクール■ 大阪府大会 金賞受賞・府代表 日時：2010年8月15日(日) 場所：堺市民会館 ■第60回関西吹奏楽コンクール■ 関西大会 銀賞受賞 日時：2010年8月22日(日) 場所：奈良県文化会館 課題曲：汐風のマーチ (田嶋勉) 自由曲：プラトンの洞窟からの脱出 (S. メリロ) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	■第37回大阪府アンサンブルコンテスト■ 日時：2010年12月26日(日) 場所：堺市民会館大ホール 編成：金管八重奏 (まちなね山吹奏楽団) 金賞受賞 曲目：Brass Octet (高昌帥) 編成：サクソス四重奏 (eNsemble minSTrel) 金賞受賞 曲目：クラヴァーとプレスト (J. リヴィエ)
2011年	定期演奏会	■第九回定期演奏会■ 日時：2011年3月5日(土) 開場 17:30 / 開演 18:00 場所：大阪国際交流センター 大ホール 【1部】 オリент急行 (P. スパーク) / 吹奏楽のための交響的ファンタジー「ハウルの動く城」(久石譲) チューバとバンドのためのコンチェルティーノ (C. サリエッティ) 《アンコール》ハナミズキ～ソロ・チューバとバンドのための～(マシコタツロウ) 【2部】 春の獵犬 (A. リード) / バレエ組曲「シバの女王ベルキス」(O. レスピーギ) 【アンコール】 サウンド・オブ・ミュージック・メドレー (岩井直博 編) / 第六の幸福をもたらす宿 より (M. アーノルド) 指揮：田中智章 客演指揮：小野川昭博 客演奏者 (チューバ)：大塚哲也
	吹奏楽コンクール	■第50回大阪府吹奏楽コンクール■ 大阪府大会 金賞受賞・府代表 日時：2011年8月14日(日) 場所：堺市民会館 ■第61回関西吹奏楽コンクール■ 関西大会 銀賞受賞 日時：2011年8月21日(日) 場所：守山市民ホール 課題曲：シャコンヌS (新実徳英) 自由曲：宇宙の音楽 (P. スパーク) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	■第10回尼信プラスフェスティバル■ 日時：2011年1月30日(日) 開場 12:30 / 開演 13:00 場所：尼崎市総合文化センター アルカイックホール 主催：尼崎信用金庫 出演団体：千葉県松戸市立第四中学校吹奏楽部・まちなね山吹奏楽団・大阪府立淀川工科高等学校吹奏楽部・尼崎市吹奏楽団 【曲目】 プライベート・ライオン～戦没者への讃歌 (J. ヴィリアムズ) サウンド・オブ・ミュージック・メドレー (岩井直博 編) 風と共に去りぬより タラのテーマ (M. スタイナー) / 第六の幸福をもたらす宿 (M. アーノルド) 指揮：小野川昭博・田中智章 ■第38回大阪府アンサンブルコンテスト■ 日時：2011年12月25日(日) 場所：堺市民会館大ホール 編成：金管八重奏 金賞受賞 曲目：金管八重奏のための「文明開化の鐘」(高橋宏樹)
2012年	定期演奏会	■第10回定期演奏会■ 日時：2012年3月10日(土) 開場 17:30 / 開演 18:00 場所：吹田市文化会館 メインアター 大ホール 【1部】 カウボーイ序曲 (J. ヴィリアムズ) Paraphrase from The Swan Lake (P.I. チャイコフスキー) (井潤昌樹 編) 吹奏楽のための祝典序曲「科戸の鶴集」(中橋愛生) 【2部】 吹奏楽のための第一組曲 (G. ホルスト) / 吹奏楽のための第二組曲 (G. ホルスト) アルメニアン・ダンス パート1 (A. リード) 【アンコール】 陽はまた昇る (P. スパーク) / ジャパニーズ・グラフィティ XIV ～A・R・A・S・H I ～Beautiful Days (三浦秀秋 編) / 見上げてごらん夜の星を 指揮：田中智章 客演指揮：小野川昭博 客演奏者：丸谷明夫

☆卒業してからは、ずっとバンドマンとしてジャズをやってたんですよ。

敏さんに3回褒められたのは僕の勲章なんです。

——そこからアレシジャーの道を歩み始めたわけですね？

真島…それが、そうでもないんですよ。ヤマハはディレクターの育成をしていたわけですから。卒業してからはずっとバンドマンとしてジャズをやってたんですよ。横浜のナイトクラブで。

——バンドマンですか？真島先生は、いつからジャズに興味を持たれたのですか？

真島…実は、大学の吹奏楽部の先輩に毎晩のようにジャズ喫茶に連れて行かれまして、ジャズに目覚めたんです。高校の時まではクラシック、特にブラームスが好きだったんですけど、ジャズも好きという人になれたんです。まあ、良かったですよ。両方知ることが出来て。

バンドマンの頃は、ピアノもやったりしパーカッションもやったりしましたよ。

——では、何がきっかけで再びアレシジャーに戻ったのでしょうか？

真島…ジャズ二本でやってやろうと思ってたんですけど、吹奏楽も捨てがたかったんです。31歳の時ですが、神奈川大学の定期演奏会で毎年アレシジャーを依頼されてたこともあって、ピアノ奏者でゲストとして呼ばれていたんです。その時、あの岩井直博先生に僕のことを「彼もアレシジャーですよ」と紹介してもらったんです。先生から「あなたの作品は良いサウンドがするね。ハモニーが面白い」と言われたんです。そこから、気がつけばニュー・サウンド・イン・プラスに起用されて。

岩井先生には良くしてもらいましたよ。その5年後ぐらいに吹奏楽コンクールの課題曲に応募した「波の見える風景」が入選して、そこからまた人生変わったっていう感じがする。「オーメンズ・オブ・ラブ」。「宝島」のアレンジもその頃です。僕がいまだにラッキーだと思ってるのは、尊敬しているクラシック界の大御所の兼田敏先生、ポップスの岩井直博先生の両方に知り合い、認めてもらい、気にかけてもらえたんです。僕はその2人と知り合えて幸せですね。

——真島先生の作品リストを見て思っていたのですが、吹奏楽オリジナル作品もあれば、ジャズの曲のアレンジもあり、クラシック曲のアレンジもされて、幅の広さに驚かされたのですが、それは全部、学生時代の活動の中に凝縮されてたんですね。

真島…そうだね。全部好きだから。僕がなぜジャズに走ったかという、大学の時に「クラシックを作曲しよう」と思っていた。

☆20世紀の音楽はやっぱり「ジャズ！」

いまさらベートーベンと同じようなこと描いても仕方ない」と思ってたんです。ストラヴィンスキーの前半の作品あたりまではいいんだけど、その後の時代の「クラシック」は現代音楽になっちゃって、あれがどうもダメですね。そこにジャズが現れて、あ、これだ！と思ったわけ。サウンドは新しいし、クラシックにはない刺激的なリズムもある。これがやりたい音楽だと思って。そこでジャズに走った。

——ジャズに流れて、でも吹奏楽が捨てがたいって言う中で、融合させたという想いが湧き上がったわけですね。



真島…そうそう、僕がやりたいのはそれなんです。ジャズで一番大きい編成がビッグバンド。でも、ほんとにジャズ好きな人はコンボを聴くと思うんだよね。ただ、それだと出せないサウンドがシンフォニックなオーケストラのような大きな編成にはある。それも好きなわけよ。

ジャズのほんとに好きな人は、アドリブが生命だから、「譜面に描いてある音楽はジャズじゃない」という人もいます。そうすると、たぶんシンフォニックなのは嫌いなはずなんだ。そうじゃなくて、シンフォニックはシンフォニックで魅力があるじゃない。僕は、その融合をやりたい。今回の「地球」という曲も、中間部のところはちょうどジャズの要素が入るようになって、一応「シンフォニックに描いてあるんだけど、かつジャズの要素が入ってる」曲を作りたいんです。

——真島先生の、吹奏楽とジャズの融合という発想がすごいんですね。

真島…シンフォニックジャズっていう言い方はガーシウイーンが言い始めたのです。いわゆる「ラプソディー・インブルー」が有

名だしい曲だけじゃなく、ジャズとしてはスタイルがちょっと古いよね。だって、僕らがジャズって感じるのは1950年代、パブル以降ですよ。そうすると、ガーシウイーンはちょっと前の時代。もうちょっと新しい感じのシンフォニックジャズをやりたいな。

——今回、私たちはポップスをきちんとやりたい、吹奏楽できちんとやりたいと思っていますが、ジャズ・ポップスの魅力は何なのでしょう？

真島…やれば、聴けば、わかりますよ。リズムがちゃんと変わってただけでもウキウキするんじゃないですか？ジャズの正當、4ビートの曲でも、けれどもここ20年くらい、ポップスに変な方向に行っちゃってるんだ。いわゆる、軽い曲ばかりになっちゃって。それを何とか、正しい方向にしたい。僕らは、クラシックは19世紀の音楽だと思ってるんですよ。20世紀の音楽はやっぱりジャズですよ。ジャズは決してレベル低くないですからね。

日本の吹奏楽だって、たぶん中高生は世界ですよ。大学ぐらい行っても世界一、かもしれないくらい技術はあるんだ。ところがそこでみんな辞めちゃう。ヨーロッパではそこからプロになる人も結構いるし、日本はそこで終わっちゃう人が多い。そういう意味でも、一般バンドの存在は嬉しいし、もつとやってほしいんです。音楽って一生楽しめるものだと思ってるんですよ。そんな想いもあって、ちゃんとしたジャズ・ポップスを広めたいな、と思って、この楽団にきています。

——そんなジャズの世界で活躍されてきた阿野先生は、どういったきっかけで音楽をはじめたのですか？

阿野…実は私は、音楽が好きでドラム始

☆ 過去の活動一覧

2001年	定期演奏会	
	吹奏楽コンクール	■第40回大阪府吹奏楽コンクール■ 金賞受賞 日時：2001年8月12日(日) 場所：大阪府立青少年会館 課題曲：平和への行列 (戸田 顕) 自由曲：カウボーイ序曲 (J. ウィリアムズ) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	
2002年	定期演奏会	■第一回定期演奏会■ 日時：2002年3月9日 開場13:30/開演14:00 場所：吹田市文化会館メシシアター 大ホール 【1部】 カウボーイ序曲 (J. ウィリアムズ)/いなな道をゆく (A. コープランド) パントマイム (P. スパーク) 【2部】 歌劇「ムツェンスク郡のマクベス夫人」より (D. ショスタコーヴィチ) 第六の幸福をもたらす宿 (M. アーノルド) 【アンコール】 ヴェニスの謝肉祭 (H. L. クラーク)/スパイラル・タワー (鈴木英史) 指揮：田中智章 客演指揮：小野川昭博 客演奏者(ユーフォニアム)：木村寛仁 ゲスト編曲者：鈴木英史
	吹奏楽コンクール	■第41回大阪府吹奏楽コンクール■ 金賞受賞 日時：2002年8月11日(日) 場所：大阪府立青少年会館 課題曲：追想 (岡田宏) 自由曲：交響曲第7番「BR」(天野正道) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	
2003年	定期演奏会	■第二回定期演奏会■ 日時：2003年3月1日(土) 開場13:30/開演14:00 場所：尼崎市総合文化センターアルカイックホール 【第1部】 地上の冒険 (J. ウィリアムズ)/サクソフォン協奏曲 (H. トマジ) いつか王子さまが (F. チャーチル) 【第2部】 交響曲第3番 (J. バーンズ) 【アンコール】 交響曲第2番より アダージョ (S. ラフマニノフ) 即興演奏/吹奏楽のための第1組曲より マーチ (G. ホルスト) 指揮：田中智章 客演指揮：小野川昭博 客演奏者(サクソフォン)：平野公崇
	吹奏楽コンクール	■第42回大阪府吹奏楽コンクール■ 金賞受賞 日時：2003年8月10日(日) 場所：大阪府立青少年会館 課題曲：行進曲「虹色の風」(松尾善雄) 自由曲：絵のない絵本 (樽屋雅徳) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	
2004年	定期演奏会	■第三回定期演奏会■ 日時：2004年3月6日(土) 開場18:00/開演18:30 場所：森ノ宮ピロティホール 【1部】 パンチネロ (A. リード)/タイム・トゥ・セイ・グッバイ (F. サルトーリ) サガ・キャンディダ〜魔女狩りの7つの印象 (B. アッペルモント) 【2部】 トランペット協奏曲 (A. アルチュニアン)/サモン・ザ・ヒーロー (J. ウィリアムズ) 【3部】 アルプスの詩 (F. チェザリーニ) 【アンコール】 ゴッドファーザーII 愛は誰のために (N. ロータ)/「GR」より 明日への希望 (天野正道) 指揮：田中智章 客演指揮：小野川昭博 客演奏者(トランペット)：高橋敦
	吹奏楽コンクール	■第43回大阪府吹奏楽コンクール■ 大阪府大会 金賞受賞・府代表 日時：2004年8月15日(日) 場所：大阪府立青少年会館 ■第54回関西吹奏楽コンクール■ 関西大会 銅賞受賞 日時：2004年8月22日 場所：橿原文化会館 課題曲：祈りの旅 (北爪道夫) 自由曲：サガ・キャンディダ (B. アッペルモント) 指揮：田中智章
	その他の主な活動	
2005年	定期演奏会	
	吹奏楽コンクール	■第44回大阪府吹奏楽コンクール■ 金賞受賞 日時：2005年8月14日(日) 場所：大阪府立青少年会館 課題曲：マーチ「春風」(南俊明) 自由曲：楓葉の舞 (長生淳) 指揮：福野勝久
	その他の主な活動	■JOYFUL BRASS 2005■ 三木ウィンドフィルハーモニー・まちかね山吹奏楽団 日時：2005年5月1日(日) 開場16:00/開演17:00 場所：ザ・シンフォニーホール 【曲目】<第二部：まちかね山吹奏楽団> 新時代へのファンファーレ (J. スタンプ) スリープ (E. ウィテカー)/オペラ「メリーマウント」組曲 (H. ハンソン) 指揮：福野勝久 客演指揮：小野川昭博 <第三部：合同ステージ> メリーウィドウセレクション (F. レハール) 蝶々夫人ファンタジー (G. プッチーニ)/歌劇「アイーダ」より (G. ヴェルディ) 客演指揮：斉田好男

☆ 良いオーケストラってリズムがいい！

西弁にならないでしょ。それで一生懸命真似するわけですよ。そうじゃないと、関西弁に近づかないっていうのと同じですよ。

阿野…どんなリズムでもね、8ビート、4ビート、16ビート、ラテン、それぞれあるけどビートっていうのは1個しかないんですよ。このビートをドラムが弾けばビートの二オイを出せば良くなる。ビートはドラムとベースから出ているんですよ。そのビートを合わせるんですよ。譜面に載っているおたまじゃくしをいくら合わせようとしたって合わないですよ。多少ずれても、グルーブ感が続いたら、かっこいいですよ。そうすると、音楽がバツと広がってくる。メカニク的に、そこだけを合わせてっていう音楽をやっていると、もうつまらない音楽になっちゃう。それが無い人になると、全然合わないんですよ。

アメリカの人と一緒に演奏した時に、僕にはビート感がないと分かったんです。結局、最終的に根本に戻ってきたんです。いろんな問題があるけど、全てリラックスすれば可能になるんですよ。

—— 今までシンフォニックの曲を演奏していて、目も合っていないメンバーと心が合っているって感じた瞬間はたくさんあるんですよ。曲がポップスに変わっても、曲が意図する音楽を共有できるっていう風になるまでに、まだバンドは至ってませんが、結局は一緒なのかあとと感じます。

真島…クラシックもね、やっぱり上手いオーケストラはビートが良い。リズムが良い。クラシックの場合はドラムで刻むんじゃない。

—— 吹奏楽のシンフォニックな良さ。クラシックの曲の良さっていうのは、わかってるつもりなんですけど、まだまだ、先生たちが今こたわっている音楽の本当の良さは、気づけていない。私たちはそこをに気づいて、もっと楽しさを追求したいと思っています。

真島…それは正解ですよ。吹奏楽がどう



なくて内在しているわけだけど、ジャズ、ポップスは露骨にそれがドラムやベースによって表に出ているっていうだけで、やっぱり、良いオーケストラってリズムがいいですよ。

吹奏楽っていうのは両方出来るという魅力がある。オケの要素もビッグバンドの要素もあるし、両方出来るのが吹奏楽のいいところじゃないかと思うんですよ。

その利点を活かして、何でもしたらいいと思いますよ。そんな格好はってクラシックやらなくても良いわけで、ポップスも出来る。もつと、普通の人が聴いて楽しめる曲が出来る。

それがたぶん吹奏楽のもともとの使命だったんじゃないかと思うんですよ。だから、「ポップスがやりたい」っていうのは非常に良いし、ぜひやってください。ちゃんとやれば楽しいですから。そしてやる以上はポップスもちゃんとやりたいっていうのは、えらいですね。そうやってほしいですよ、全部が。

—— そうですね、演奏会当日にお客様に伝わるように頑張りたいと思います。本日はありがとうございました。

